

群馬県の財政状況



平成25年10月
群馬県総務部財政課



日本で最初の官営器械製糸工場[富岡製糸場]

群馬県では、「富岡製糸場と絹産業遺産群」(蚕糸・製糸・流通)をユネスコ世界文化遺産に登録することを目指しています。



富岡製糸場と絹産業遺産群
世界遺産へ



目次

Section1. 県の概要、経済の状況

群馬県の人口と強い経済	3
群馬県の産業構造	4
民間企業から選ばれる群馬県	5
東北～九州、太平洋～日本海を結ぶ交通の結節点	6
群馬県の恵まれた自然条件	7
群馬県の魅力あふれる観光資源	8
県政トピックス『富岡製糸場と絹産業遺産群』	9
群馬のトリビア	10

Section2. 財政状況と行政改革の取り組み

平成25年度群馬県当初予算	13
平成25年度一般会計当初予算(歳入)	14
平成25年度一般会計当初予算(歳出・性質別)	15
普通会計の決算収支	16
普通会計決算(歳入)の推移	17
県税決算の推移(普通会計)	18
普通会計決算(歳出・性質別)の推移	19
公債費及び投資的経費の推移	20
県債新規発行額と残高の推移	21
全国型市場公募債の発行と減債基金の積立	22
行政改革の取り組み	23

Section3. 主な財政指標の状況

財政健全化法に基づく財政指標の推移	25
将来負担比率と実質公債費比率(平成24年度決算)	26
財政指標の推移	27
プライマリーバランスの推移(決算ベース)	28

Section4. 公営企業・地方公社等について

公営企業会計の決算状況	30
地方三公社の決算状況(住宅供給公社)	31
出資法人の状況	32

Section5. 市場公募債発行計画

平成25年度市場公募債発行計画	34
お問い合わせ先	35

Section 1.

県の概要、経済の状況

- 人口規模は約200万人で中堅クラス。発達した交通網、安定した気候と災害への安心感、長い歴史で築かれた基盤技術などで、工場立地件数は全国トップクラス
- 本州のほぼ中央、首都東京から約100kmに位置しており、アクセスの便が良い
- 多彩で多様な農業が展開され、「首都圏の台所」と呼ばれる
- 温泉、自然、歴史遺産といった魅力あふれる観光資源が人々を惹きつける
- 日本産業革命のシンボル「富岡製糸場と絹産業遺産群」の、2014年(平成26年)のユネスコ世界文化遺産登録を目指す



[尾瀬国立公園]

国民的愛唱歌「夏の思い出」で全国に名を知られる国立公園です。



群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」

プロフィール
誕生日:2月22日(魚座)
年齢:7歳
モチーフ:ポニー

ゆるキャラグランプリ2013 投票よろしくね
http://www.yurugp.jp/entry_detail.php?id=435





群馬県の人口と強い経済

- 工場立地件数は常に全国トップクラスであり、強い経済が特徴

製造業に限った
企業立地面積では
全国第1位！
(113.8ha)

恵まれた立地環境、利便性の高さ、災害への安心感から、多くの企業が群馬県に進出しています。

工場立地件数 ➡ 70件

全国 第3位

(平成24年)

	H19年		H20年		H21年		H22年		H23年		H24年	
1位	静岡県	124	静岡県	144	兵庫県	54	群馬県	50	兵庫県	56	北海道	75
2位	群馬県	98	兵庫県	102	愛知県	51	愛知県	47	愛知県	43	静岡県	73
3位	愛知県	98	愛知県	98	茨城県	50	兵庫県	44	静岡県	37	群馬県	70
4位	兵庫県	96	群馬県	83	群馬県	47	静岡県	41	埼玉県	36	兵庫県	68
5位	茨城県	92	茨城県	79	静岡県	44	茨城県	39	岐阜県	35	栃木県	61
8位									群馬県	33		

人口 ➡ 199.2万人

全国 第18位

(平成24年10月1日)

生産年齢人口比率

➡ 61.7%

全国 第16位

(平成24年10月1日)

20年後(H42)の推計人口

➡ 1,787千人(減少率11.0%)

減少率が低い方から 全国 第18位

有効求人倍率 ➡ 1.06

全国 第13位

(平成25年8月)

1人当たり県民所得

➡ 2,716千円

全国 第21位

(平成22年度)

年間製造品出荷額

➡ 7兆3,833億円

全国 第15位

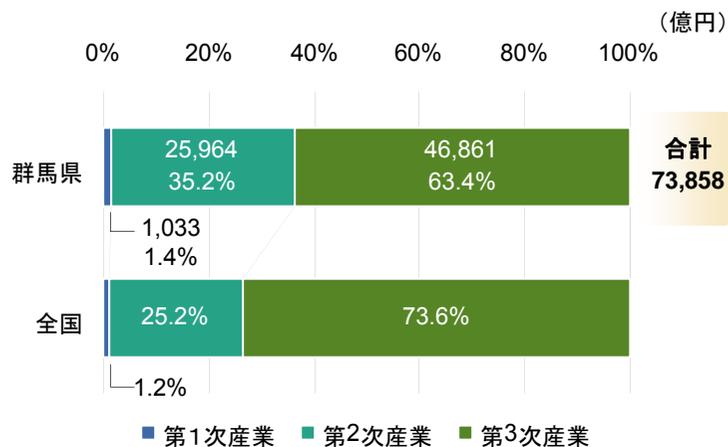
(平成23年度)



群馬県の産業構造

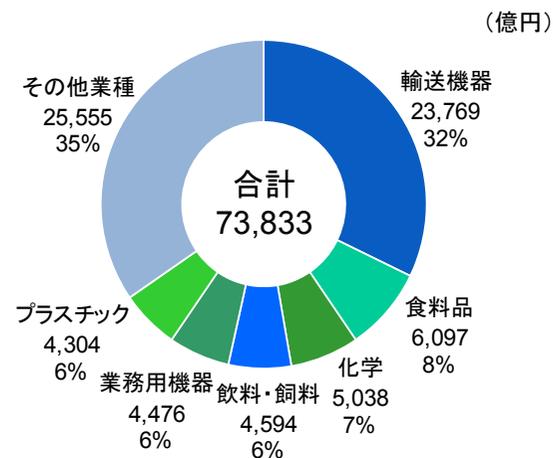
- 発達した交通網、安定した気候、自然災害の少なさ、長い歴史で築かれた基盤技術などで、ものづくり産業が発展
- 豊富な水資源や首都圏に位置するなど有利な立地条件を活かし、「首都圏の台所」として、多彩で多様な農業が展開

経済活動別名目県内(国内)総生産



出典：群馬県県民経済計算(H22年度確報)
及び内閣府国民経済計算(H22年度確報)

製造品出荷額



出典：H23年工業統計調査

主な県内立地企業

業種	企業名
輸送機器	富士重工業
	日野自動車
	ミツバ
	日本発条
	カルソニックカンセイ
食料品	山崎製パン
	森永製菓
	ブルドックソース
	ハーゲンダッツ
	ダノンジャパン
業務用機器	日本ケロッグ
	キャノン電子
飲料・飼料	明治乳業
	サッポロビール
	サントリー

農業生産量全国順位(平成22年)

順位	品目	生産量(占有率)
1位	こんにゃくいも	61,900 t (96%)
	キャベツ	240,800 t (18%)
2位	きゅうり	58,600 t (10%)
	うめ	5,660 t (6%)
3位	レタス	52,400 t (10%)
	ほうれんそう	20,000 t (7%)
	生乳	258,464 t (3%)

出典：関東農政局前橋地域センター

製造品出荷額全国1位の製品

製品	出荷額
コーヒー飲料(ポッカコーポレーション、サントリー など)	781億円
アイスクリーム(ハーゲンダッツなど)	438億円
冷凍装置(三洋電機、サンデン など)	213億円
床板(パナソニック電工群馬 など)	192億円
空洞コンクリートブロック(エスビック など)	57億円

出典：H22年度工業統計調査





民間企業から選ばれる群馬県

近年の主な立地企業



- 「事業継続体制」を意識した民間企業の立地が加速
- 民間企業に選ばれる理由
「災害リスクの低さ」、「東京圏との同時被災の回避」、
「東西南北への良好なアクセス」、「東京圏との距離」 など
- データセンター、物流のバックアップ拠点として貢献

バックアップ拠点としての優位性

- 東京圏とのアクセスが容易かつ確実
- 巨大地震発生時、同時被災の回避
- 日本海(海路)、高速道路を利用した輸送、救援体制
- 平時から物流拠点としての機能を確保
- 県内を走る太平洋と日本海を結ぶガスパイプライン



「オール群馬」によるバックアップ機能の誘致

「群馬県バックアップ機能誘致協議会」による「オール群馬」で企業等の誘致を推進

設立年月：平成23年11月
構成機関：県内経済団体、県内全市町村、県等



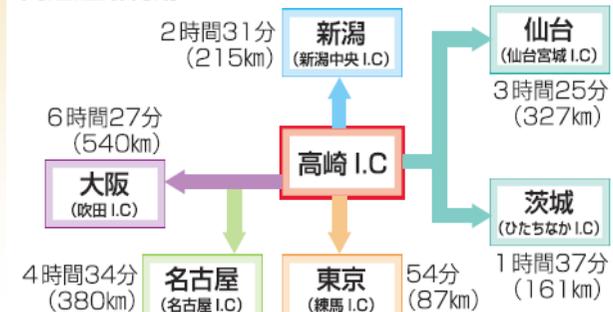
東北～九州、太平洋～日本海を結ぶ交通の結節点

- 本州のほぼ中央、首都東京から約100kmに位置しており、アクセスの便が良いのが群馬県の魅力



- ◆ 関越、上信越、北関東、東北自動車道により、東日本と西日本、太平洋側と日本海側を結ぶ高速交通網が整備されています。

高速道路利用



- ◆ 上越新幹線と長野新幹線が走っており、鉄道交通の結節点である高崎駅を中心に各方面へのアクセスが便利です。

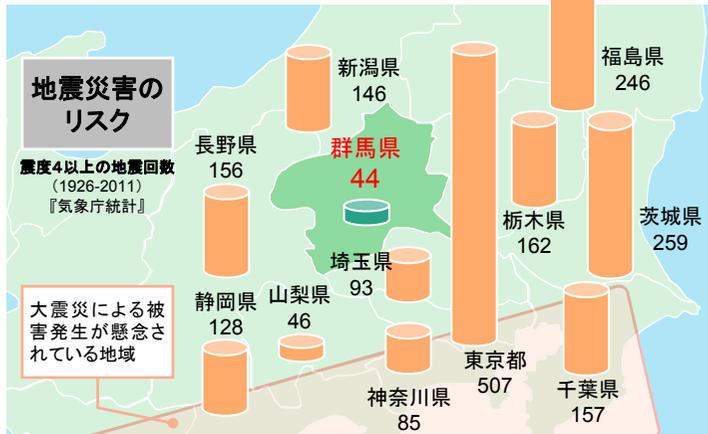
新幹線利用



群馬県の恵まれた自然条件

- 関東一、地震が少ない県であり、地震災害のリスクが非常に低い
- 平均日照時間が全国で上位に位置するなど恵まれた気象条件を有し、自然災害が少ない

地震災害のリスク



地震保険の基準料率



- 地震保険基準料の算定を行う「損害保険料率算出機構」が、国立天文台編の「理科年表」に掲載されている過去500年間に発生して被害をもたらした約400回の地震データ(マグニチュード、震源地)を活用して決定した保険料のランク付け等別(平成19年10月1日)で、群馬県は最も安い1等地の県になっています

年間日照時間

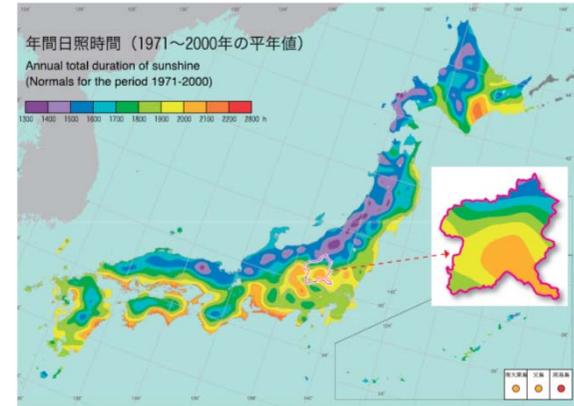
全国県庁所在地日照時間
(2012年気象庁観測データ)

順位	市名	年間日照時間(h)
1位	甲府市	2,357.9
2位	静岡市	2,268.8
3位	前橋市	2,216.3
4位	水戸市	2,202.3
5位	名古屋市	2,159.5
6位	津市	2,148.3
7位	さいたま市	2,141.9
8位	岐阜市	2,131.7
9位	横浜市	2,125.0
10位	宇都宮市	2,088.5

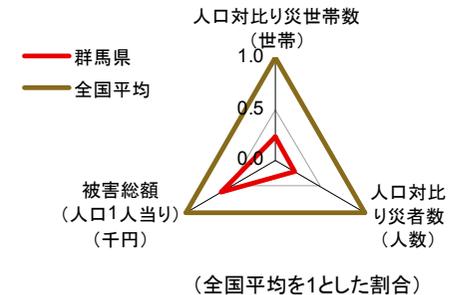
- 平野部では冬場の降雪もほぼなく、太陽光発電施設の立地に最適。
- メガソーラーの稼働状況は全国9位。(出力ベース: 69.7kW。H25.5月末時点)

「電源群馬プロジェクト」の推進

- 平成25年1月、再生可能エネルギー発電施設の設置に向け「電源群馬プロジェクト」を立ち上げ
- その一環として、群馬産業技術センター西用地に、最大出力500kWの太陽光発電所を建設(平成26年夏完成予定)



自然災害による被害状況



出典: 消防庁 消防白書 注: 平成18-22年の平均



群馬県の魅力あふれる観光資源

■ 温泉、自然、歴史遺産といった魅力あふれる豊富な観光資源が人々を惹きつける

人気が高い群馬県ブランドの温泉

- 群馬県の温泉は泉質も施設も種類が豊富です
- 全国的にも人気が高く、群馬県の観光の目玉として抜群の集客力を誇り、大きな経済効果をもたらしています

NIKKEIプラス1温泉大賞

温泉地別順位表(抜粋)

総合順位	温泉地名	所在地
1	草津	群馬県
2	湯布院	大分県
3	黒川	熊本県
4	別府	大分県
5	登別	北海道
15	四万	群馬県
20	伊香保	群馬県
23	法師	群馬県
26	万座	群馬県

出典: NIKKEIプラス1「温泉大賞」

みんなで選ぶ 第4回温泉大賞

温泉地部門(抜粋)

総合順位	温泉地名	所在地
1	草津	群馬県
2	湯布院	大分県
3	有馬	兵庫県
4	登別	北海道
5	下呂	岐阜県
10	伊香保	群馬県
21	万座	群馬県
26	四万	群馬県

出典: BIGLOBEによるサイト上でのWebアンケート調査(アンケート期間は2011年10月5日~11月16日)



草津温泉



伊香保温泉



水上温泉

群馬県の自然

- 群馬県は山林が県土の約3分の2を占め、豊かな自然にあふれています
- 県内では川、滝、湖沼、湧水など、さまざまな水の形に出会うことができます。山々は古く『万葉集』にも詠みこまれ、深田久弥著の『日本百名山』では県内から11の山が選ばれています
- また、日本を代表する美しい風景と貴重な生態系を有する尾瀬は、全域が国立公園の特別地域であり、その核心部は特別保護地区として、国の特別天然記念物に指定されています



尾瀬



赤城山



左: わたらせ渓谷鐵道
右: 妙義山



群馬県の歴史遺産

- 富岡製糸場は、明治5(1872)年に日本初の官営器械製糸工場として設立されました
- 平成24年1月、世界遺産登録に向け、ユネスコへ推薦書を提出
- 古墳時代、ヤマト政権の東国支配の拠点として繁栄していた上毛野。群馬県には1万基以上の古墳があるといわれており、古墳の数は全国で有数。太田市「天神山古墳」は、全長210mで、東日本で最大の前方後円墳



富岡製糸場



天神山古墳



県政トピックス 『富岡製糸場と絹産業遺産群』

平成26年のユネスコ世界文化遺産登録を目指しています

日本産業革命のシンボルを世界遺産に

- 日本は、それまで欧米に限定されていた産業革命を非西欧圏で初めて達成し、急速な近代化に成功
- その中心となり、輸出によって近代化の資金を稼いだのが「絹産業」
- さらに、20世紀の初めからは、生糸の大量輸出を通じて、世界の絹産業の発展と新しい服飾文化の開花に大きく貢献
- これらの日本の絹産業の歴史を象徴する遺産群が「富岡製糸場と絹産業遺産群」
- 群馬県では、世界に誇る日本産業革命のシンボルとして、この遺産群の世界遺産登録を目指す

富岡製糸場のあらし

- 明治5(1872)年に明治政府が設立した官営の器械製糸場
- 富岡製糸場が創業し、国中の製糸業が近代化。さらに独自に養蚕の技術革新も起こり、原料繭の大量生産に成功
- その結果、日本は20世紀初めには世界中に安価で良質な生糸を輸出、高級繊維の絹をより身近な存在に
- 第2次大戦後は、生糸生産のオートメーション化にも成功、自動繰糸機は全世界に輸出され、絹の大衆化に貢献、現在も世界の絹産業を支えている
- 和洋技術を混交した工場建築の代表であり、長さ100mを超える木骨レンガ造の繭倉庫や繰糸場など、創業当初の主要な施設が現存

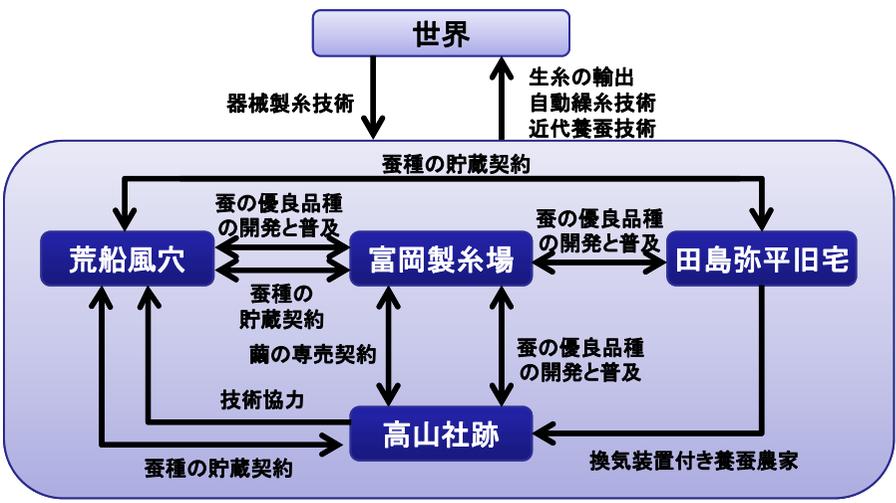


世界遺産の登録に向けて

- 平成19年に、「富岡製糸場と絹産業遺産群」として、ユネスコの世界遺産暫定リストに搭載
- 平成24年8月23日に、世界文化遺産登録に向けて、政府のユネスコへの推薦が決定
- 平成25年1月31日、ユネスコに正式推薦書提出
- **平成25年9月 ユネスコの諮問機関(イコモス)による現地調査**
- 平成26年6～7月 ユネスコ世界遺産委員会で審査
- **平成26年世界文化遺産登録を目指す**

遺産群の構成資産

- 近代日本における、絹に関する世界と日本の「技術交流」と、養蚕・製糸における世界を変えた「技術革新」を未来に伝える絹産業の貴重な遺産群
- 富岡市「富岡製糸場」、伊勢崎市「田島弥平旧宅」、藤岡市「高山社跡」、下仁田町「荒船風穴」の4つの資産で構成





群馬のトリビア①

■ 日本一・世界一

県立つつじが岡公園	樹齢800年を超えるヤマツツジをはじめ約1万株のツツジが美しく咲き誇る名勝。アメリカのツツジ・ジャクナゲ協会会長デビット・リーチ氏が「世界一」と賞賛。
利根川	みなかみ町の大水上山(おおみなかみやま)を源流とし流域面積約16,840km ² で日本一。
草津温泉	「日本三名泉」「日本三大薬湯」。自噴湧出量が毎分32,300ℓで日本一。
宝川温泉の露天風呂	4つの露天風呂の面積は合計約470畳(約235坪)で日本一の大きさ。
草津温泉西の河原露天風呂	面積が約150坪(500m ²)で単独の露天風呂の大きさで日本最大。
こんにやく	こんにやくの作付面積と収穫量は、群馬県が全国の80%以上で日本一。
夏秋キャベツ	嬭恋村を中心に栽培が盛んで、日本一の収穫量。
繭と生糸	群馬県は繭の生産量、生糸の生産量、養蚕農家戸数が日本一。
原木しいたけ	群馬県は平成22年の原木しいたけの生産量が日本一。
鮎	1年で世代交代する鮎。県水産試験場で生産している養殖鮎は、平成23年で42回世代交代を行っており、日本一。
荒船風穴(史跡荒船・東谷風穴蚕種貯蔵所跡)	下仁田町にあり、明治38年から大正にかけて建設された天然の冷風を利用した蚕種(カイコの卵)貯蔵施設で、貯蔵能力は種紙110万枚で日本一。
群馬県食肉卸売市場	小動物(豚)のと畜許可頭数が1日当たり3,000頭で、日本一。
アイスクリーム出荷額	出荷額アイスクリームの出荷額は日本一(平成22年工業統計調査)。
コーヒー飲料出荷額	コーヒー飲料の出荷額は日本一(平成22年工業統計調査)。
清涼飲料水出荷額	清涼飲料水の出荷額は日本一(平成22年工業統計調査)。
冷凍装置出荷額	製氷機等の冷凍装置出荷額は日本一(平成22年工業統計調査)。
空洞コンクリートブロック出荷額	空洞コンクリートブロックの出荷額は日本一(平成22年工業統計調査)。
ホッチキス	マックスが生産する小型ホッチキスは国内でのシェア75%。
カラオケ本舗まねきねこ	店舗数が平成24年7月18日現在318店で日本一。
ヤマダ電機	家電量販店として年間売上高日本一。店舗数でも家電量販店トップ。
カスターネット	㈱プラス白桜社は、カスターネットの国内生産の大半を占めるトップシェア企業。
高崎だるま	高崎だるまは年間約90万個を製造で日本一。
創作こけし	創作こけしのシェアは60%以上で日本一。
埴輪	国宝・重要文化財に指定されている埴輪42件のうち、群馬県出土の物は19件あり、日本一の数。
史跡上野国分寺七重塔	国分寺の塔として日本最大級の推定高60.5mの七重塔が建てられていた。
史跡上野国新田郡庁跡	太田市にある7世紀後半から9世紀にかけての郡の役所の中枢施設。郡庁の規模は、一辺が約90mで日本最大。
天神山古墳	太田市にある「天神山古墳」は、全長が210mで東日本で最大の前方後円墳。
前橋城	慶応3年(1868)に幕府防衛のため再築され、日本最後の近世城郭となった。
土合駅	ホームと駅舎の間に日本一の階段数の486段の階段がある「日本一のモグラ駅」。
樽沢トンネル	日本最短の鉄道トンネルで、長さが約7.2m。
関越トンネル	全長は、上り線が11,055m、下り線は10,926mで、道路のトンネルとして日本最長。
利根川・江戸川サイクリングロード	全長約170km。川沿いでは日本一長いサイクリングロードで、群馬県はその出発点。
メロディーライン設置数	県内には12カ所設置されており、日本一の数。
上毛かるた	累計で約140万組発行、郷土かるたの中で日本一。
フランソワ・ボンボン所蔵数	館林美術館が所蔵する「フランソワ・ボンボン」の作品・資料コレクションの数は全101点で、日本一。
高崎市内の山車数	高崎市にある山車の保有数は38台で、日本一の数。

ぐんま天文台	夜間観望会の参加者数はぐんま天文台が第1位。
県立赤城ふれあいの森木製ローラーすべり台	全長380mで木製ローラーすべり台としては日本一の長さ。
緑の少年団の団員数	平成24年1月1日現在、62,401名で日本一の数。また、県内の全小学校に緑の少年団が設置されているのは群馬県だけ。
公営電気事業者の発電所数	群馬県企業局は、平成24年4月1日現在、発電所が34カ所(水力32、火力1、風力1)あり、公営電気事業者(地方公共団体が経営する電気事業者)として日本一の数で、供給電力量も日本一。
自動車保有台数	平成22年現在、人口千人あたりの自動車の保有台数は861.0台で日本一。
自家用車数	平成22年現在、自家用自動車の台数は641.6台で日本一。
免許保有率	平成22年現在、人口に対する自動車運転免許を保有している割合が約70%で日本一。
外国人の集住率トップクラス	大泉町は、平成24年4月1日現在、人口に占める外国人の割合が15.3%で日本一。
神流川発電所(上野ダム)	1基47万kWの発電機を6基配し、完成すれば揚水発電所としては世界最大級の設計最大出力282万kW。
下久保ダム	堤体の長さが605mで、重力式コンクリートダムの中で日本一の長さ。
丸沼ダム	高さが32.1mで、コンクリートバットレスダムの中で日本一の高さ。

■ 日本初

尾瀬	「ごみ持ち帰り運動」が尾瀬で初めて行われた。
赤谷プロジェクト	生物多様性の復元と持続的な地域づくりのため、地域住民で組織する赤谷プロジェクト地域協議会、林野庁関東森林管理局、日本自然保護協会の3者が協働して、国有林を管理する日本初の取り組み。
伊香保温泉	温泉まんじゅう発祥の地。また、伊香保温泉の石段(365段)は、金比羅宮(香川県1,368段)、立石寺(山寺)(山形県1,015段)と並び「日本三大石段」。
富岡製糸場	日本初の本格的な模範製糸工場として操業開始。
新町紡績所	日本で最初に官営で操業した層糸紡績工場。
中小坂鉄山	下仁田町にあった鉄山で、江戸時代から製鉄が行われ、明治7年に民間資本で操業を開始した後、明治11年から17年までの間、日本初の官営の鉄山となった。
わくわく自販機ミュージアム	日本自動販売機工業会が日本で初めて開設した自動販売機をPRする常設施設。
恐竜の足跡	「さざ波岩」の表面にある穴が、恐竜の足跡として昭和60年に日本で初めて認められた。
岩宿遺跡	日本で最初に発見された旧石器時代の遺跡。
碓氷峠	信越本線の横川～軽井沢間は、最大66.7パーミル、標高差553mの急勾配のため、レールの間に歯車のレールを敷設し、歯車を機関車の歯車と噛みあわせて運行する「アプト式」により明治26年に開通。明治45年には国有鉄道幹線では最初に電化された。平成9年の長野新幹線開通を機に廃線。
群馬交響楽団	昭和20年創設の「高崎市民オーケストラ」を前身とし、「群馬フィルハーモニーオーケストラ」と改称後、昭和22年にプロとなり、昭和38年に群馬交響楽団と改称された。昭和30年に群響がモデルの映画「ここに泉あり」が公開されて注目を集める。また、県内の小中学生にオーケストラの演奏を身近に感じる機会として開催されている移動音楽教室は、昭和22年から始まり、延べ600万人以上の児童・生徒が鑑賞している。
上泉伊勢守	剣術の新陰流を創始したほか、袋竹刀を発明。
中学生まで医療費無料	所得制限や自己負担なく、中学校卒業まで医療費が無料となる制度を、全国に先駆けて平成21年から群馬県が実施。

■ 概要 ■ 自然 ■ 温泉 ■ 食 ■ 農業 ■ 産業 ■ 歴史 ■ 文化 ■ 風土





群馬のトリビア②

■ 日本最古

磯部温泉	古地図に日本最古の温泉マークがしるされた「温泉記号発祥の地」。
四万温泉	国民保養温泉地第一号に指定。「積善館」は現存する日本最古の湯宿。
神津牧場	明治20年(1887)、日本で最初の洋式の牧場として開設。
上野三碑 (山上碑、多胡碑、金井沢碑)	山上碑は完全な形で現存する石碑としては日本最古級。金井沢碑は「群馬」という文字が使われた県内最古の例。多胡碑は日本三古碑。
デキ1 デキ3	営業線を走る日本最古の電気機関車。
デハ101	車籍があり、乗客を乗せて自走する日本最古の電車。
安政の遠足	江戸時代、安中藩主が藩士の鍛錬のため徒歩競争させた。これが日本のマラソンの発祥とされる。

■ 日本で唯一

上野村のシオジ林	上野村楡原にあるシオジの原生林は、シオジ林としては日本で唯一、天然記念物に指定されている。
アザレアコレクション	ぐんまフラワーパークの「アザレアコレクション」は、世界的にも貴重なコレクションとして評価されている。
ぐんま昆虫の森	日本で唯一の体験型昆虫施設。
ギンヒカリ	群馬県の開発品種「ギンヒカリ」は、食用大型ニジマスで唯一バイオテクノロジーを使わずに開発された魚。
ウクレレ	前橋市の三ツ葉楽器㈱は、国内で唯一ウクレレを量産。
イングリッシュハンドベル	イングリッシュハンドベルの製造は、世界でアメリカの2社と日本の1社でほぼ占められているが、日本のメーカーが富岡市の「榎アプリ」。
ダノンジャパン(㈱)館林工場	館林市にある「ダノンジャパン(㈱)館林工場」は、国内で唯一同社の製品を製造する工場。
日本ケロッグ(合同)高崎工場	高崎市にある「日本ケロッグ(合同)高崎工場」は、国内で唯一同社の製品を製造する工場。
ハーゲンダッツジャパン(㈱)群馬工場	高崎市にある「ハーゲンダッツジャパン(㈱)群馬工場」は、国内で唯一同社の製品を製造する工場。
スバル(富士重工㈱)	「富士重工㈱群馬製作所」では「スバル」ブランドで自動車を生産。世界でも数少ない「水平対向エンジン」を搭載し、群馬から日本国内、さらに全世界へ輸出。
ヤマト発動機㈱	太田市の「ヤマト発動機㈱」は、ボートレース用のモーター(エンジン)とボートを国内で唯一生産。
「はやぶさ」の回収カプセル	富岡市の宇宙関連機器の総合メーカー「㈱HIEアロスペース富岡事業所」は、小惑星探査機「はやぶさ」の回収カプセルを設計・開発。
AED	富岡市にある医療用電子機器メーカー「日本光電工業(㈱)富岡工場」は、AED(自動体外式除細動器)を国内で唯一製造。
自然史博物館	日本で唯一カマラサウルスの実物の全身骨格を展示。ブラキオサウルスの全身骨格復元模型の展示や、トリケラトプスの実物骨格を展示しているポーンベッドも、日本で唯一。また、館内のプラナリのジオラマは高さ日本一のほか、日本に数点しかないダーウィンの手紙を日本で初めて公開。
県道9号線	渡良瀬遊水地の西側を走る主要地方道9号佐野古河線は、群馬、栃木、埼玉、茨城4つの県をまたぐ日本で唯一の県道。
上三原田歌舞伎舞台	渋川市にあり、ガンドウ機構(三方の板壁を外側に倒して舞台面を2倍以上の広さにする)、遠見機構(舞台の奥に遠見と呼ぶ背景をつけ、奥行きを深く見せる)、柱立廻式廻転機構(平舞台いっぽいの回転部を回転させる)、セリヒキ機構(二重と呼ぶ小舞台を天井・奈落の双方からせり上げ、せり下ろす)という全国に例のない4つの機構があり、その操作技術とともに国の重要な有形民俗文化財に指定されている。
ゲルニカ(タピスリー)	近代美術館が所蔵するゲルニカ(タピスリー)は、ピカソ本人が監修し、世界に3点しか存在しない貴重な美術品。日本では県立近代美術館のみが所蔵。

諏訪峡大橋のバンジージャンプ	みなかみ町の諏訪峡にかかる諏訪峡大橋からのバンジージャンプは、日本で唯一、橋から飛ぶ。
重粒子線がん治療施設	がん治療の最先端装置で、国内では群馬大学附属病院(前橋市)、放射線医学総合研究所(千葉)、兵庫県立粒子線医療センター(兵庫)の3か所、世界でも5か所のみ。総合病院にあるのは群馬大学附属病院が国内で唯一、世界でも2施設目。

■ 日本三大・世界三大

妙義山	耶馬溪(大分県)、寒霞溪(かんかけい)(香川県)と並び、「日本三大奇勝」「日本近代登山の父」ウォルター・ウェストンが妙義の山岳ガイド根本清蔵に登山技術を教えたことから「近代登山発祥の地」ともいわれる。
谷川岳	日本百名山で、剱岳(富山県)、穂高岳(長野県・岐阜県)と並んで「日本三大岩場」。
川中温泉	美肌効果があると言われ、龍神温泉(和歌山県)、湯の川温泉(島根県)とともに、「日本三大美人の湯」。
太田焼きそば	横手やきそば(秋田県)、富士宮やきそば(静岡県)とともに「日本三大焼きそば」。
水沢うどん	稲庭うどん(秋田県)、讃岐うどん(香川県)と並んで「日本三大うどん」。
伊勢崎市境島村地区	「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産の1つ「田島弥平旧宅」がある伊勢崎市境島村地区は、かつて福島県信達地方、長野県上田地方とともに「日本三大蚕種製造地帯」といわれ、蚕種の生産が盛んだった。
貫前神社	531年創建と伝えられ、927年の『延喜式』の神名帳に掲載されている由緒ある神社。総門よりも社殿が低いところにある「下り宮」で、鶴戸神宮(宮崎県)、草部吉見神社(熊本県)と並んで「三下り宮」。
曹源寺のさざえ堂	太田市にあり、会津さざえ堂(福島県会津若松市)、平等山成身院百体観音堂(埼玉県本庄市)とともに、「三大さざえ堂」。(さざえ堂とは、螺旋状の回廊を有する特異な建築物で、江戸時代に各地で建設された)
碓氷関所	安中市にある旧中山道の関所。箱根関所(神奈川県)、新居関所(静岡県)とともに「日本三大関所」。なお「日本四大関所」の場合は、三大関所に福島関所(長野県)が加わる。
関孝和	円周率や球の体積の計算方法を考え出し、ニュートン、ライプニッツと並ぶ世界三大数学者。
土師の辻	藤岡市の土師神社にあり、石川県の羽咋神社、大阪府の住吉神社とともに「日本三辻」。(相撲辻とは屋外で行った相撲の土俵のこと)
船津伝次平	幕末から明治にかけて活躍した農業指導者で、奈良県の中村直三、香川県の高島専三とともに「日本三老農」。群馬をはじめ我が国の農業技術改良や普及に尽力した。
高山彦九郎	高山彦九郎は、江戸時代後期の尊皇思想家で、林子平・蒲生君平とともに「寛政の三奇人」。幕末の尊皇運動に大きな影響を与えた。

■ 貴重・希少

沼田の河岸段丘	利根川、片品川、薄根川が沼田盆地を浸食して形成され、6段もの段丘が形成されており、高校の教科書の河岸段丘を説明するページには必ずといっていいほど写真が掲載されている。
チャツボミコケ	硫黄泉や硫化金属鉱山付近の流水中や湿岩に生育するコケ(タイ類)で、北海道から九州にかけて分布。中之条町六合地区の元山にあるチャツボミコケ公園は、鉄鉱石の露天掘り跡に強酸性の湯が湧出し、チャツボミコケが群生している。広範囲に生育しているのは珍しい。
満徳寺	太田市にあり、江戸時代中頃に降に江戸幕府の公認を受けた、世界に二つしかない縁切寺の一つ。もう一つは鎌倉の東慶寺。「駆け込み寺」とも呼ばれ、江戸時代、離婚を求めて駆け込んだ妻を救済し、夫との離婚を達成させてくれた尼寺。
平坦地にある3県境	東武日光線柳生駅の近くには群馬、栃木、埼玉の3県の県境が平地の水田内にある珍しい地点がある。

概要 自然 温泉 食 農業 産業 歴史 文化 風土



Section 2.

財政状況と行政改革の取り組み

- 昭和32年以降、56年間連続で黒字決算となり、安定した財政運営を実施
- 県債は、実質的な地方交付税である臨時財政対策債の発行が伸びているが、その他の県債では、発行を抑制し、残高が着実に減少
- 市場公募債の満期一括償還に備えた減債基金を確実に積立(H24年度末で241億円)
- 人口千人当たりの職員数(一般行政部門)は、少ない方から数えて全国3位の1.99人
※政令指定都市のある15道府県及び東京都を除く(平成24年4月1日現在)



[草津温泉]

自噴する温泉としては、日本で一番の湧出量を誇ります。街の中心にある湯畑は草津のシンボルとなっています。





平成25年度群馬県当初予算

基本方針

- 第14次総合計画『はばたけ群馬プラン』(H23~27)に掲げる3つの基本目標「地域を支え、経済・社会活動を支える人づくり」、「誰もが安全で安心できる暮らしづくり」、「恵まれた立地条件を活かした産業活力の向上・社会基盤づくり」を推進するための施策に積極的に取り組む
- 景気回復の動きが県内の隅々まで及ぶよう、社会基盤の整備を進めるとともに、特別支援学校整備や障害者雇用の促進、「医療先進県ぐんま」の推進などに取り組み、県民生活の向上を図っていくため、『暮らし・活力増進予算』を編成

当初予算の3つの柱

1 地域を支え、経済・社会活動を支える人づくり

2 誰もが安全で安心できる暮らしづくり

3 産業活力の向上・社会基盤づくり

特徴的な施策

子ども医療費の無料化

[予算額:40.4億円]



- ・通院・入院ともに、中学校卒業までの医療費を無料化（自己負担分を県と市町村で全額補助）
- ・所得制限なし
- ・H21.10月から全国に先駆け県内全市町村で実施

先端医療産業の推進

[予算額:1,778万円]



- ・重粒子線治療を中心とした「がん医療産業拠点」の形成
- ・総合特区制度を活用し、医療水準の向上と地域経済の活性化を実現
- ・ものづくり企業の医療分野への参入を促進

農畜産物の輸出促進

[予算額:1,520万円]



- ・海外見本市への出展や輸出国の貿易制度等に対応できる生産・物流体制を整備
- ・観光誘客や県産品の販路拡大も含め、旺盛な東アジアの需要を取り込むため、上海に県の事務所を開設（H25.4月オープン。県職員が2名常駐）



平成25年度一般会計当初予算(歳入)

- 自動車関連企業の回復基調など、県内経済の明るい兆しを反映して、県税は増加
- 国の地方財政対策により、地方交付税については減額
- 回復基調にある県内経済をしっかりと下支えするため、建設事業の財源となる県債を増やして必要な投資的事業費を確保

区分	H25年度 当初予算額 (億円)	H24年度 当初予算額 (億円)	前年度比 (%)
県税	1,965	1,960	100.3
地方消費税清算金	382	390	97.9
地方譲与税	282	291	96.9
地方交付税	1,333	1,389	96.0
国庫支出金	741	734	101.0
県債	1,059	988	107.2
臨時財政対策債	689	638	108.0
退職手当債	0	0	—
その他の県債	370	350	105.7
基金繰入金	451	464	97.2
その他	451	438	103.0
計	6,664	6,654	100.2
内訳			
自主財源	3,231	3,238	99.8
依存財源	3,433	3,416	100.5

※臨時財政対策債は、地方交付税の不足を補うものとして国から地方団体に発行額が割り当てられ、償還費は後年度の地方交付税に加算される地方債(借入)で、実質的な地方交付税とされているものです

※依存財源は地方譲与税、地方特例交付金、地方交付税、交通安全対策特別交付金、国庫支出金及び県債です

※自主財源は依存財源以外の財源です





平成25年度一般会計当初予算(歳出・性質別)

- H25年度当初予算規模は、地方財政計画を上回る、前年度対比0.2%の増
- 県内経済の回復の動きをより着実なものとし、県内の隅々まで及ぶよう、社会基盤の整備を進めるとともに、特別支援学校整備や障害者雇用の促進、医療先進県ぐんまの推進など、県民生活に密着した事業費予算を確保

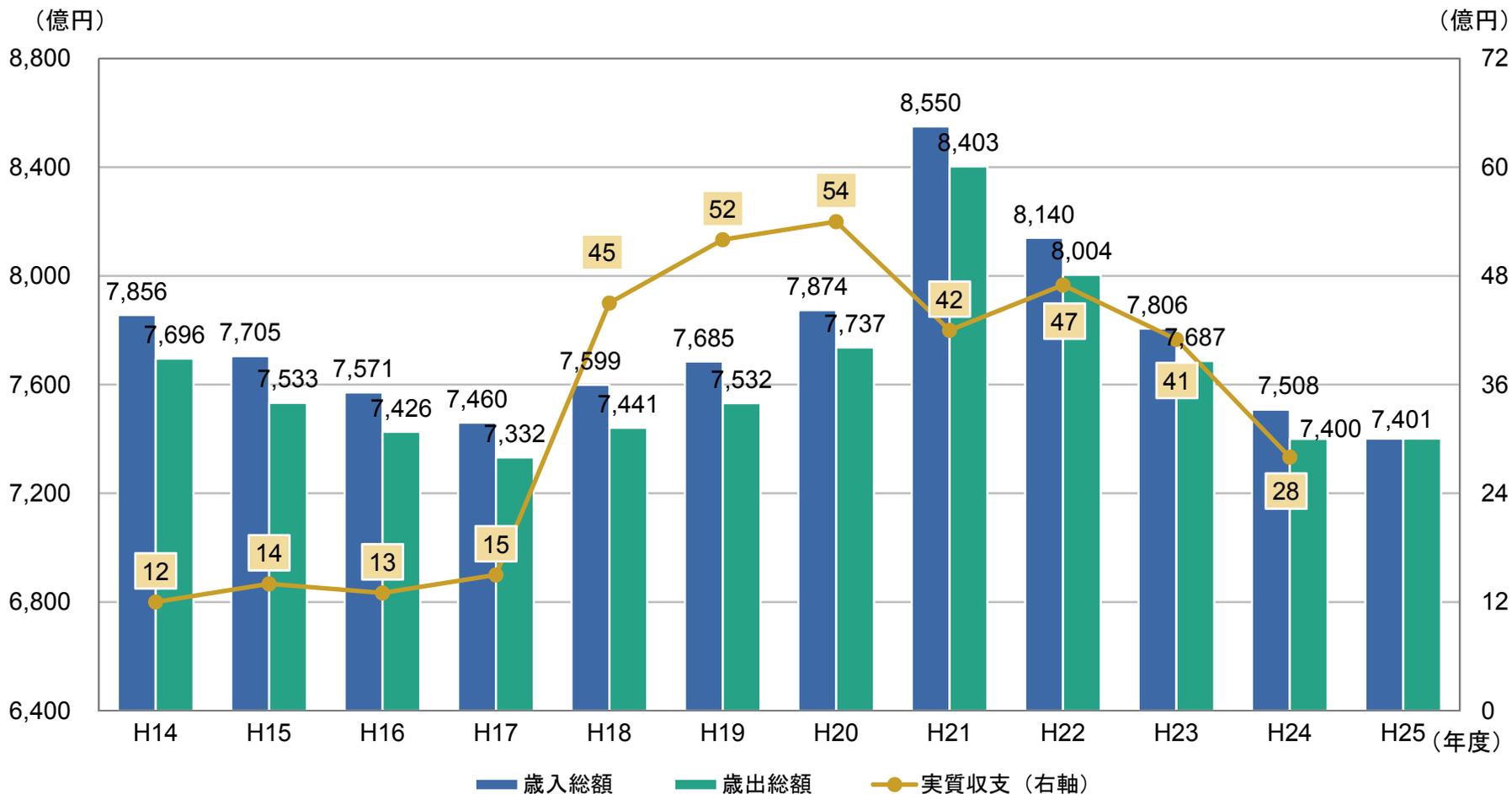
区分	H25年度 当初予算額 (億円)	H24年度 当初予算額 (億円)	前年度比 (%)
義務的経費	3,533	3,539	99.8
人件費	2,289※	2,343	97.7
退職手当	212	215	98.4
退職手当除き	2,077	2,128	97.6
扶助費	242	241	100.2
公債費	1,002	954	105.1
投資的経費	1,026	1,037	98.9
補助公共事業	243	245	99.0
単独公共事業	564	575	98.1
その他の建設事業	219	217	99.4
補助費等	1,655	1,648	100.5
その他	450	430	104.6
合計	6,664	6,654	100.2
うち社会保障関係費	836	799	104.7

※義務的経費のうち人件費については、国による大幅な地方交付税削減に伴い、県民サービスの低下を招かないよう、職員給与をH25年度補正予算において減額(▲73億円)。その結果、H25年度の人件費予算額は2,216億円となり、前年度比94.5%となっています



普通会計の決算収支

- 昭和32年以降、56年間連続で黒字決算となり、安定した財政運営を実施
- H24年度は、国の経済対策基金事業の減少により、前年度に比べ歳入歳出とも下回ったものの、実質収支は28億円の黒字



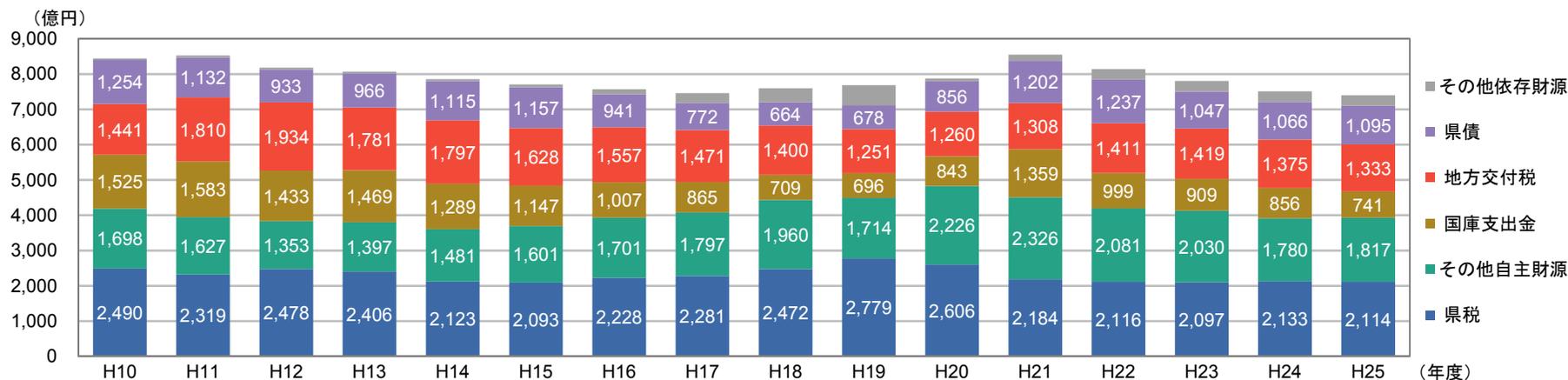
※H24年度まで決算ベース、H25年度は当初予算ベース





普通会計決算(歳入)の推移

- H19年度に過去最大の税収(2,779億円)を記録するものの、その後の急速な景気の悪化で減収へ転じる
- 県債については、実質的な地方交付税である臨時財政対策債の発行が急増しているが、それ以外の県債は、発行を抑制



(億円)

歳入決算額	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
歳入総額	8,443	8,526	8,182	8,068	7,856	7,705	7,571	7,460	7,599	7,685	7,874	8,550	8,140	7,806	7,508	7,401
自主財源	4,189	3,946	3,831	3,804	3,604	3,694	3,929	4,078	4,432	4,493	4,832	4,509	4,197	4,127	3,913	3,932
県税	2,490	2,319	2,478	2,406	2,123	2,093	2,228	2,281	2,472	2,779	2,606	2,184	2,116	2,097	2,133	2,114
その他自主財源	1,698	1,627	1,353	1,397	1,481	1,601	1,701	1,797	1,960	1,714	2,226	2,326	2,081	2,030	1,780	1,817
依存財源	4,255	4,580	4,351	4,264	4,252	4,011	3,642	3,382	3,167	3,192	3,042	4,041	3,943	3,679	3,596	3,469
国庫支出金	1,525	1,583	1,433	1,469	1,289	1,147	1,007	865	709	696	843	1,359	999	909	856	741
地方交付税	1,441	1,810	1,934	1,781	1,797	1,628	1,557	1,471	1,400	1,251	1,260	1,308	1,411	1,419	1,375	1,333
県債	1,254	1,132	933	966	1,115	1,157	941	772	664	678	856	1,202	1,237	1,047	1,066	1,095
(臨時債)	—	—	—	111	221	466	332	255	229	207	252	510	803	637	640	689
(その他)	1,254	1,132	933	855	894	691	609	517	435	471	604	692	434	410	426	406
その他依存財源	35	54	51	49	51	79	138	274	393	566	83	173	296	304	299	300

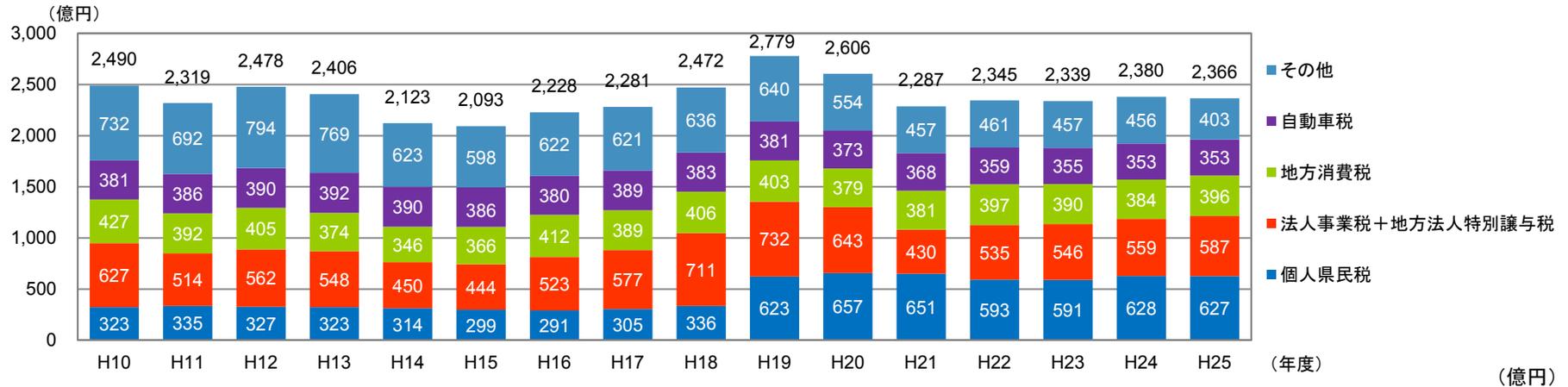
※H24年度まで決算ベース、H25年度は当初予算ベース





県税決算の推移(普通会計)

- 主な税目は、個人県民税、法人事業税、地方消費税、自動車税など
- 法人事業税が景気の影響を受けることが、主な増減要因
- H19年度に個人県民税が大きく増額しているのは、国の税源移譲(所得税(国税)→個人県民税)の影響によるもの



歳入決算額	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
県民税	500	497	632	612	475	437	455	466	520	820	811	759	719	716	747	738
個人	323	335	327	323	314	299	291	305	336	623	657	651	593	591	628	627
法人	131	113	123	119	104	100	115	117	140	146	123	81	100	103	107	102
利子割	46	49	182	170	56	37	50	44	44	51	32	27	26	23	12	9
事業税	656	537	584	570	471	464	543	597	731	752	662	345	323	319	326	349
個人	29	23	22	21	21	19	20	20	20	20	20	18	16	15	15	14
法人	627	514	562	548	450	444	523	577	711	732	643	327	307	304	311	335
地方消費税	427	392	405	374	346	366	412	389	406	403	379	381	397	390	384	396
不動産取得税	96	86	77	84	77	71	64	73	70	74	70	58	48	50	47	46
自動車取得税	101	92	93	90	84	94	92	91	92	85	73	46	38	32	42	37
軽油引取税	244	238	226	217	215	211	218	214	208	201	175	154	175	172	172	155
自動車税	381	386	390	392	390	386	380	389	383	381	373	368	359	355	353	353
その他	85	91	71	67	65	64	64	62	62	63	63	73	57	63	61	40
合計	2,490	2,319	2,478	2,406	2,123	2,093	2,228	2,281	2,472	2,779	2,606	2,184	2,116	2,097	2,132	2,114
地方法人特別譲与税	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	103	228	242	248	252
法人事業税+地方法人特別譲与税	627	514	562	548	450	444	523	577	711	732	643	430	535	546	559	587

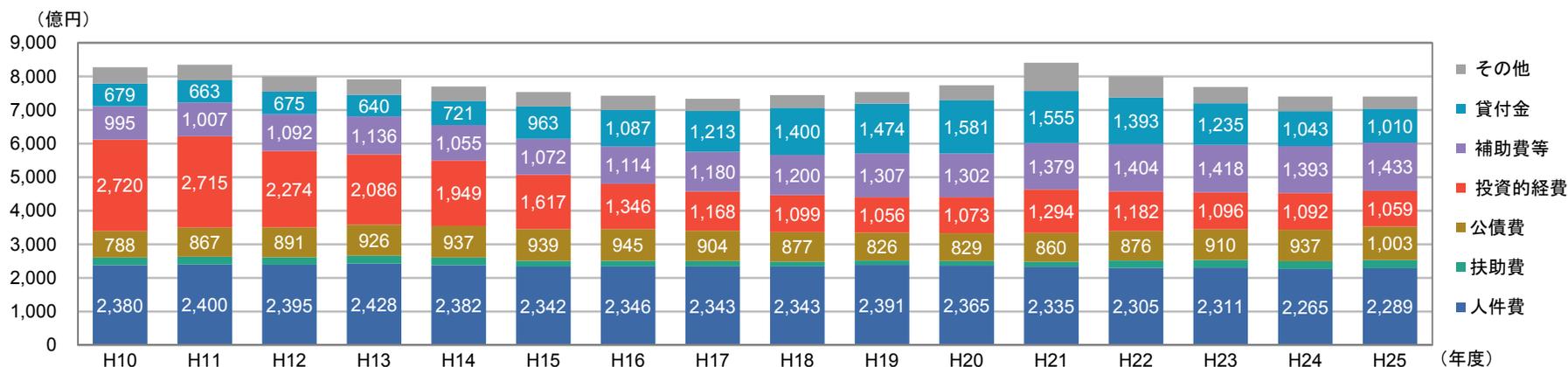
※H24年度まで決算ベース、H25年度は当初予算ベース





普通会計決算(歳出・性質別)の推移

- 財政健全化の取り組みなどにより、投資的経費及び人件費を中心に歳出規模が減少
- 義務的経費は、ピーク時のH13年度(3,589億円)と比較し、55億円縮減(うち人件費は139億円縮減)
- 投資的経費は、ピーク時のH7年度(2,788億円)と比較し、約4割となる1,059億円に縮減



	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
歳出総額	8,270	8,348	7,994	7,909	7,696	7,533	7,426	7,332	7,441	7,532	7,737	8,403	8,004	7,687	7,400	7,401
義務的経費	3,396	3,502	3,506	3,589	3,546	3,452	3,458	3,407	3,366	3,348	3,332	3,341	3,397	3,448	3,438	3,534
人件費	2,380	2,400	2,395	2,428	2,382	2,342	2,346	2,343	2,343	2,391	2,365	2,335	2,305	2,311	2,265	2,289
(うち職員給)	1,818	1,810	1,807	1,828	1,778	1,742	1,750	1,762	1,763	1,764	1,759	1,707	1,663	1,648	1,635	1,638
扶助費	228	235	220	235	228	171	167	160	145	130	138	146	217	227	236	242
公債費	788	867	891	926	937	939	945	904	877	826	829	860	876	910	937	1,003
投資的経費	2,720	2,715	2,274	2,086	1,949	1,617	1,346	1,168	1,099	1,056	1,073	1,294	1,182	1,096	1,092	1,059
普通建設事業	2,668	2,638	2,207	2,011	1,870	1,592	1,340	1,161	1,093	1,027	1,045	1,285	1,180	1,084	1,077	1,024
災害復旧事業	53	77	67	76	79	25	5	7	6	29	28	10	2	12	15	35
補助費等	995	1,007	1,092	1,136	1,055	1,072	1,114	1,180	1,200	1,307	1,302	1,379	1,404	1,418	1,393	1,433
貸付金	679	663	675	640	721	963	1,087	1,213	1,400	1,474	1,581	1,555	1,393	1,235	1,043	1,010
その他	480	461	446	458	425	429	422	364	376	347	449	833	627	489	434	365

※H24年度まで決算ベース、H25年度は当初予算ベース

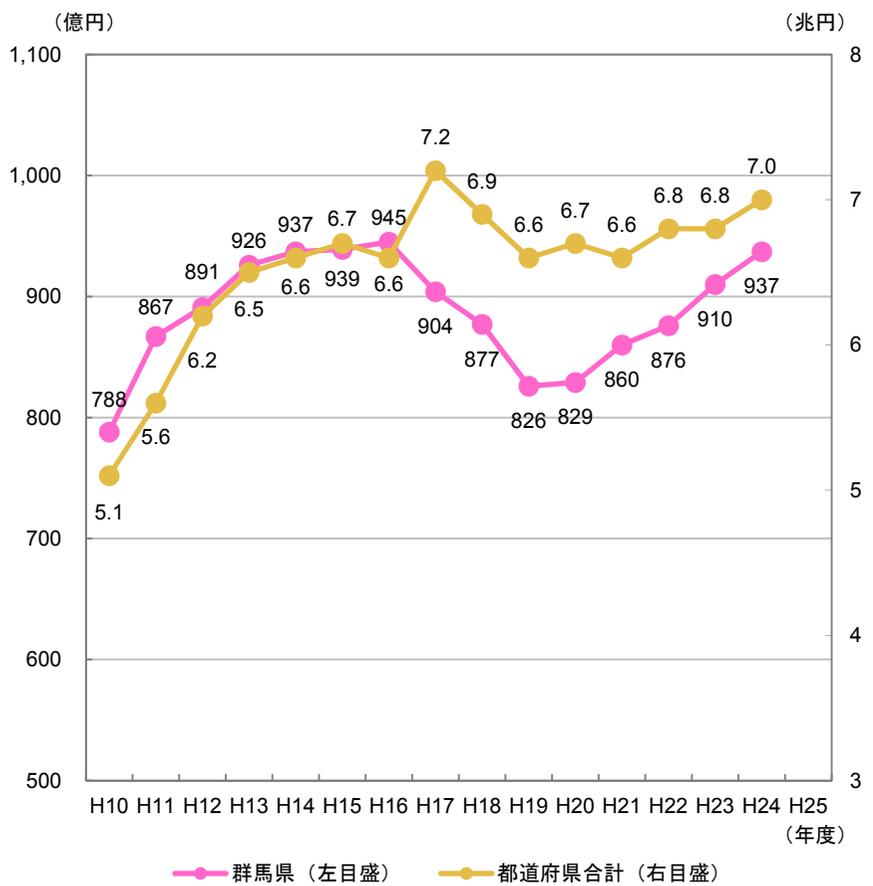




公債費及び投資的経費の推移

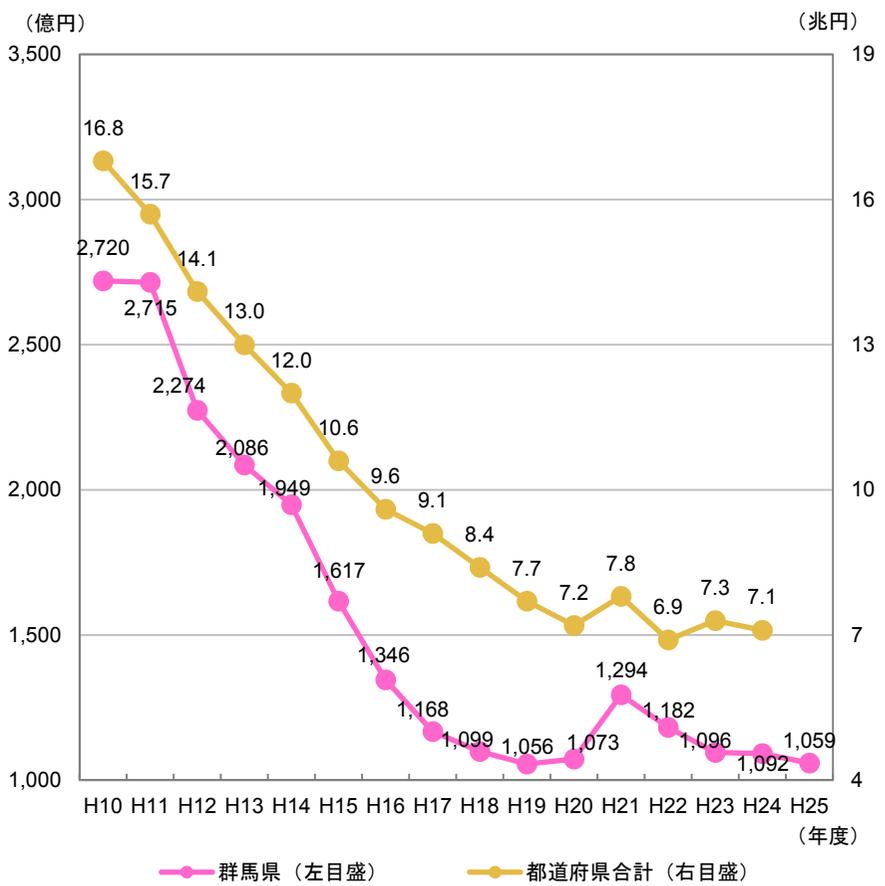
公債費

- 超長期債の新規発行によって償還年限を多様化するなど、戦略的な公債管理を行い、公債費の抑制に向けた取組を実施



投資的経費

- H24年度は国の経済対策の影響により増加するが、H25年度当初予算では再び抑制



※H24年度までは決算ベース、H25年度は当初予算ベース

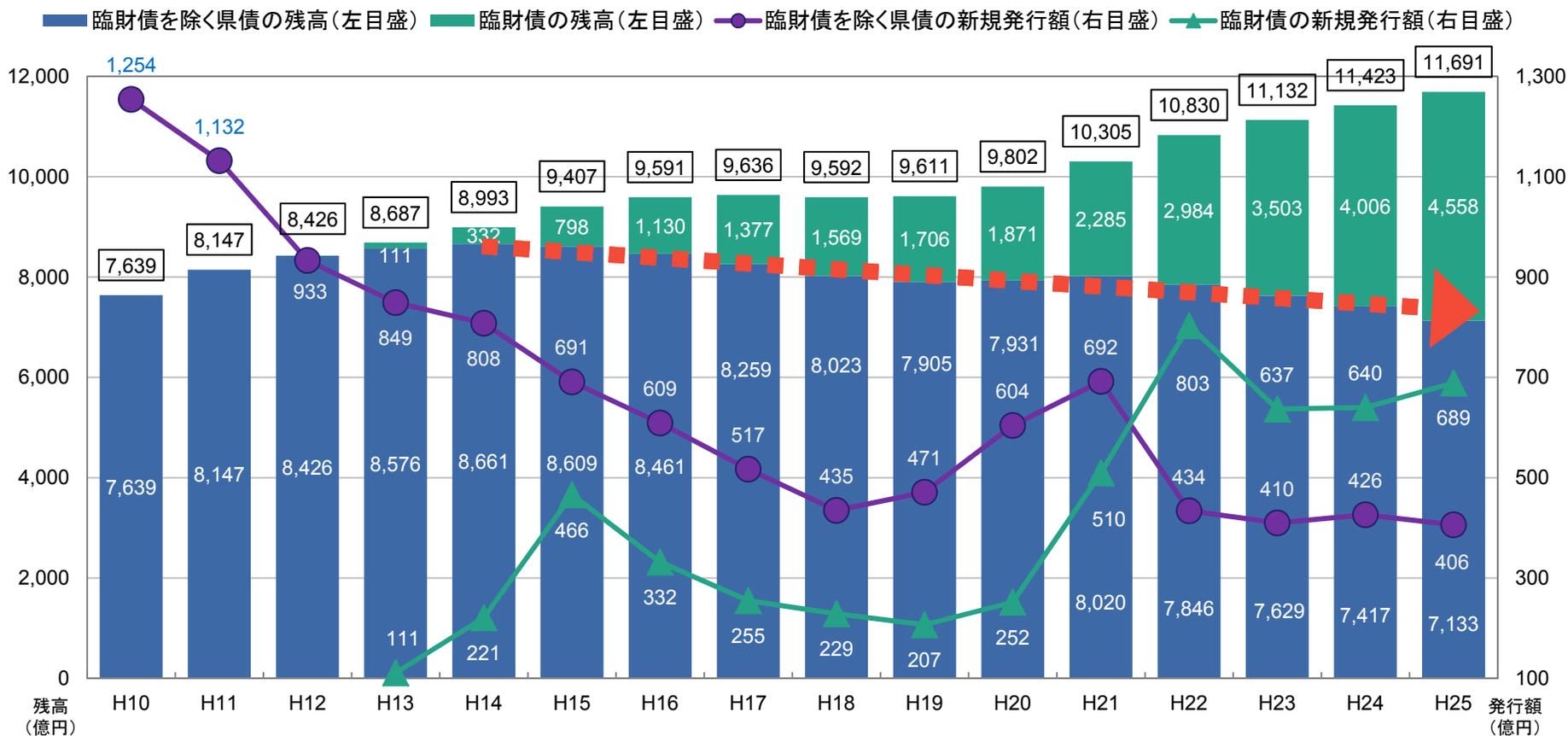




県債新規発行額と残高の推移

- 実質的な地方交付税である臨時財政対策債の発行により、県債残高は増加
- 臨時財政対策債を除く県債残高は、H14年度をピークに減少(H20年度～21年度は、景気低迷に伴う県税の減少に対応して発行する減収補てん債を発行した影響により、残高が増加)。H22年度以降は再び着実に減少
- 臨時財政対策債を除く県債の新規発行額は、H10年度1,254億円をピークに抑制(H25年度はピーク時から▲70%)

普通会計ベース



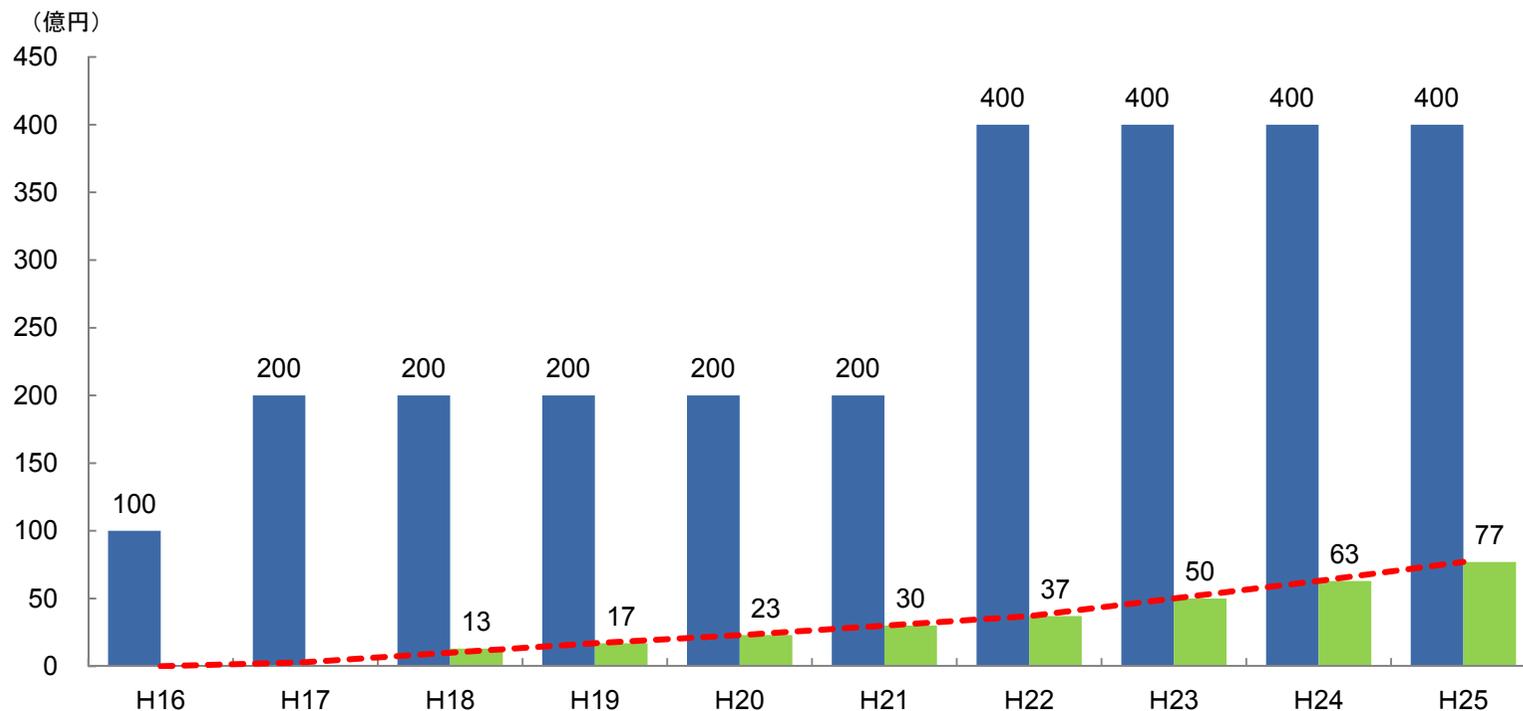
※H24までは決算ベース、H25は当初予算ベース





全国型市場公募地方債の発行と減債基金の積立

- 市場公募地方債の発行額… H16年度に100億円で発行を開始。H17～H21年度には毎年200億円、H22年度以降は毎年400億円発行
- 減債基金の積立…………… 市場公募地方債の満期一括償還に備えるため、総務省の示す積立ルールに沿った要積立額を着実に積立



	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
■ 全国型市場公募地方債発行額	100	200	200	200	200	200	400	400	400	400
■ 積立額	0	0	13	17	23	30	37	50	63	77
年度末積立金残高	0	0	13	30	54	85	124	177	241	318

※年度末積立金残高には住民参加型市場公募地方債分の積立額を含む。(H25の年度末残高は見込み)



行政改革の取り組み

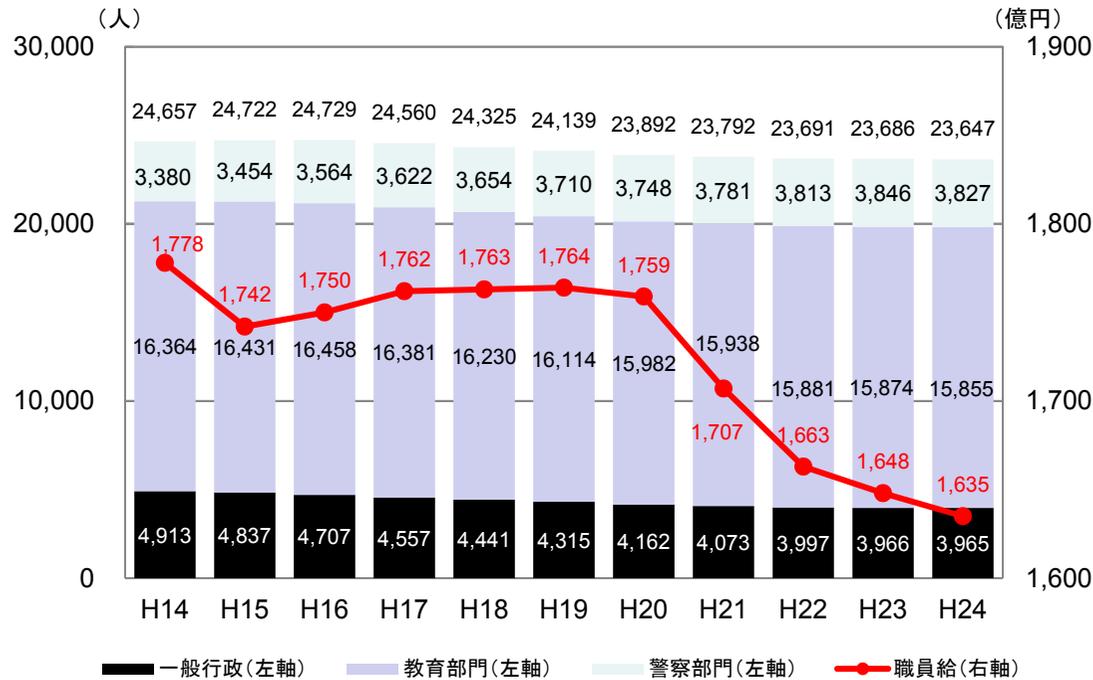
- 県政の刷新を目指した「県政運営の改革方針」(H20年度～H22年度)をほぼ計画どおりに実行(計画実施率97.4%)
さらに重点的に取り組む必要がある課題について、新行政改革大綱(H23年度～H25年度)を策定し、改革を継続中

群馬県の人口千人当たりの職員数

一般行政部門職員 1.99人(少ない方から数えて全国3位)

※政令指定都市のある15道府県及び東京都を除く(平成24年4月1日現在)

定員削減実績と職員給の推移(普通会計)



◎「新行政改革大綱(H23～H25)」の現在までの主な成果

- 適正な定員管理
 - ・一般行政部門 ▲32人
 - ・教育部門 ▲26人
- 事務・事業の見直し
 - ・35事務・事業を外部委員と協同で見直し
 - ・見直し額 ▲2億円
- 自主財源収入確保
 - ・県有施設命名権売却、自動販売機設置収入等
 - ・収入確保額 7.9億円
- 公社・事業団の見直し
 - ・▲2団体(28→26団体)
- 未利用財産の売却
 - ・売却額 11.1億円



Section 3.

主な財政指標の状況

- 財政健全化法に基づく各指標は、財政の健全性において全国上位を維持
- 実質公債費比率と将来負担比率は共に、高い水準を維持しており、現在及び将来に対する財政健全度は、市場公募発行団体(都道府県)中でも最上位の位置付け



[吹割の滝]

片品川の上流、沼田市の老神温泉から4kmほど離れたところにある滝。幅30m、高さ7m、東洋のナイアガラと呼ばれ、大自然の不思議を満喫できます。国指定天然記念物です。





財政健全化法に基づく財政指標の推移

- 各指標ともに、財政の健全性において全国上位を維持
- 早期健全化基準を大幅に下回る値となっており、今後も適切な財政運営に努め、健全な財政状況を維持

各指標の算定結果				
	H22年度	H23年度	H24年度	早期健全化基準
実質赤字比率	該当なし (黒字1.12%)	該当なし (黒字0.99%)	該当なし (黒字0.66%)	3.75%
連結実質赤字比率	該当なし (黒字12.87%)	該当なし (黒字13.47%)	該当なし (黒字14.39%)	8.75%
実質公債費比率	10.6%	11.4%	11.6%	25%
全国順位	第3位	第5位	第6位	
全国平均	13.5%	13.9%	13.7%	
将来負担比率	179.4%	177.0%	174.3%	400%
全国順位	第8位	第9位	第9位	
全国平均	220.8%	217.5%	210.5%	

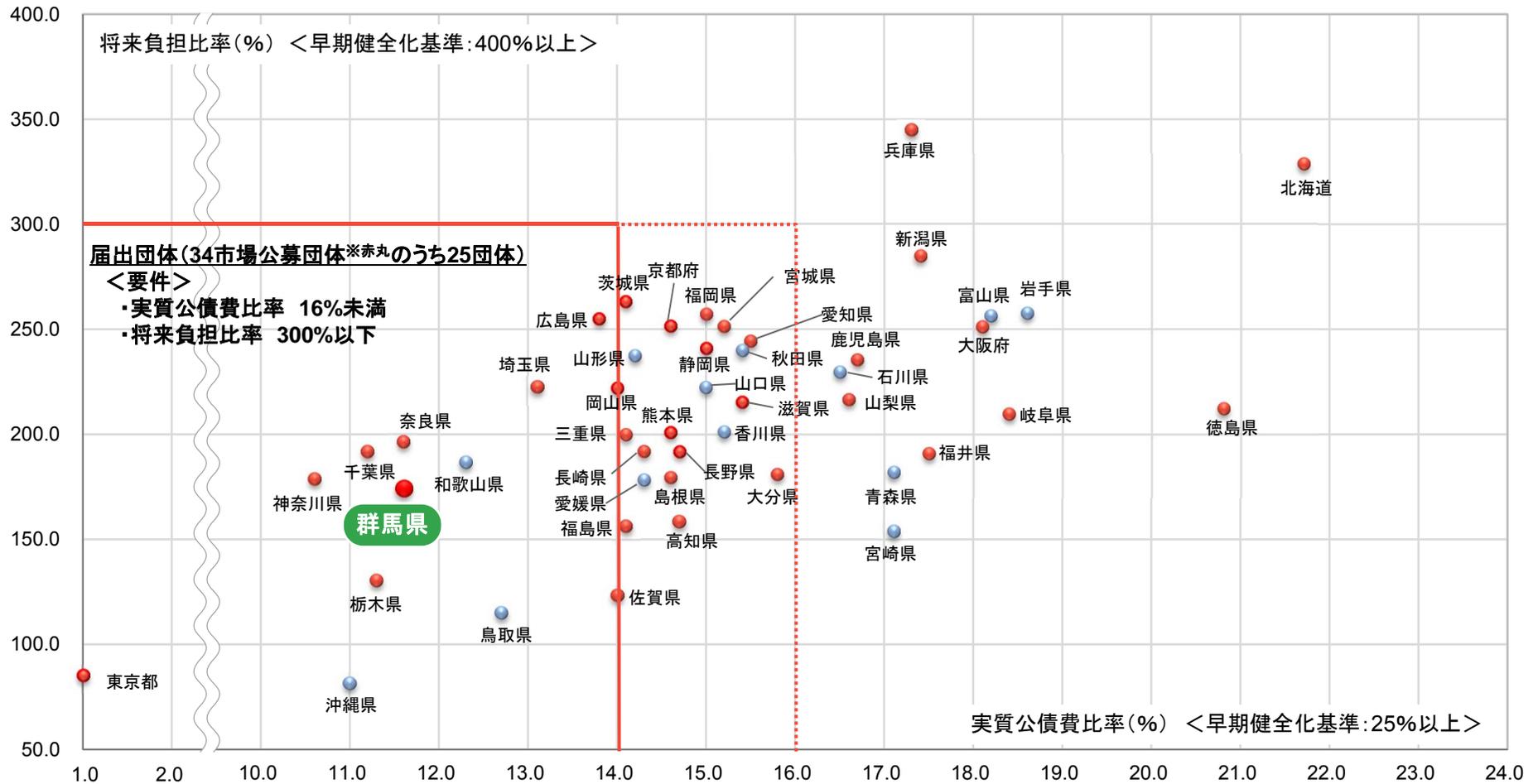
将来負担額の算定結果		
項目	金額 (億円)	算定内容
①地方債の現在高	11,676	満期一括償還分を含む地方債の残高
②債務負担行為に基づく支出予定額	204	土地改良事業負担金等
③公営企業の企業債償還への負担見込	340	流域下水道等
④組合等の借入償還に係る負担見込額	該当なし	
⑤退職手当の支給予定額	2,439	H24年度末に全職員が退職した場合の支給予定額
⑥設立法人の負債等に係る負担見込額	28	
群馬県農業公社	0	
群馬県信用保証協会	27	
群馬県林業公社	0	損失補償履行済み(H25年度末解散予定)
A 将来負担額計(①～⑥の計)	14,687	
B 充当可能基金	546	減債基金、財調基金等
C 充当可能特定財源	208	公営住宅使用料等
D 交付税算入見込額	7,521	
分子 A-(B+C+D)	6,412	H24 6,412億円





将来負担比率と実質公債費比率(平成24年度決算)

- 実質公債費比率と将来負担比率は共に、高い水準を維持
- 現在及び将来に対する財政健全度は、市場公募発行団体(都道府県)中でも最上位の位置付け

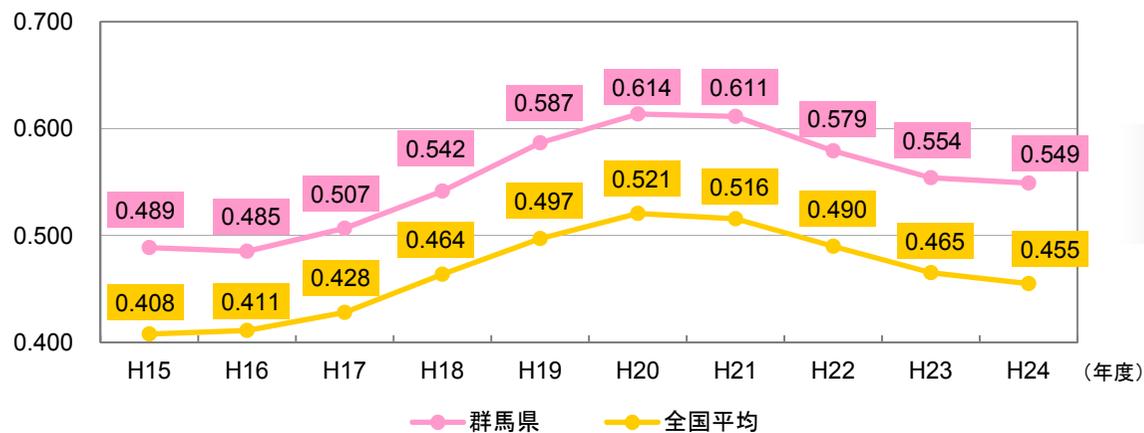




財政指標の推移

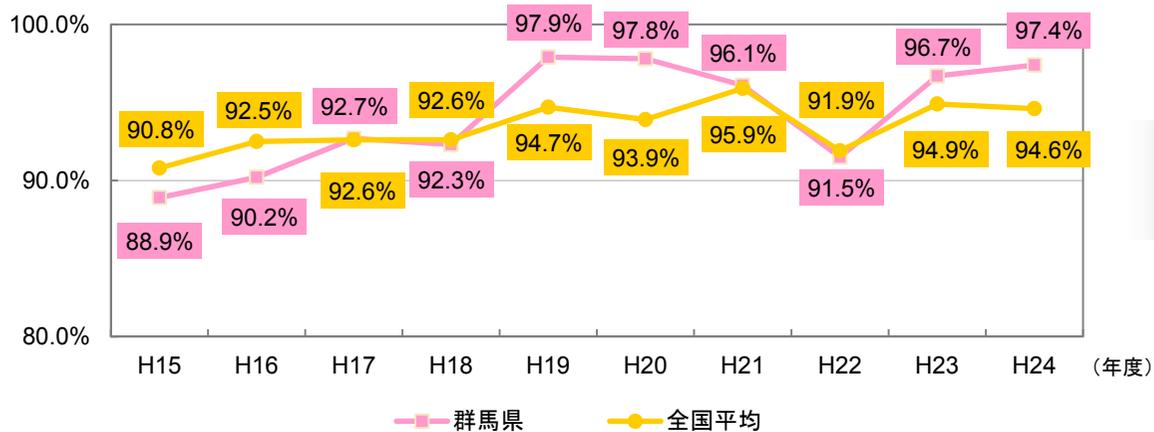
■ 各種財政指標は、堅調に推移

財政力指数



財政力指数
0.549
全国順位 集計中
全国平均 0.455

経常収支比率



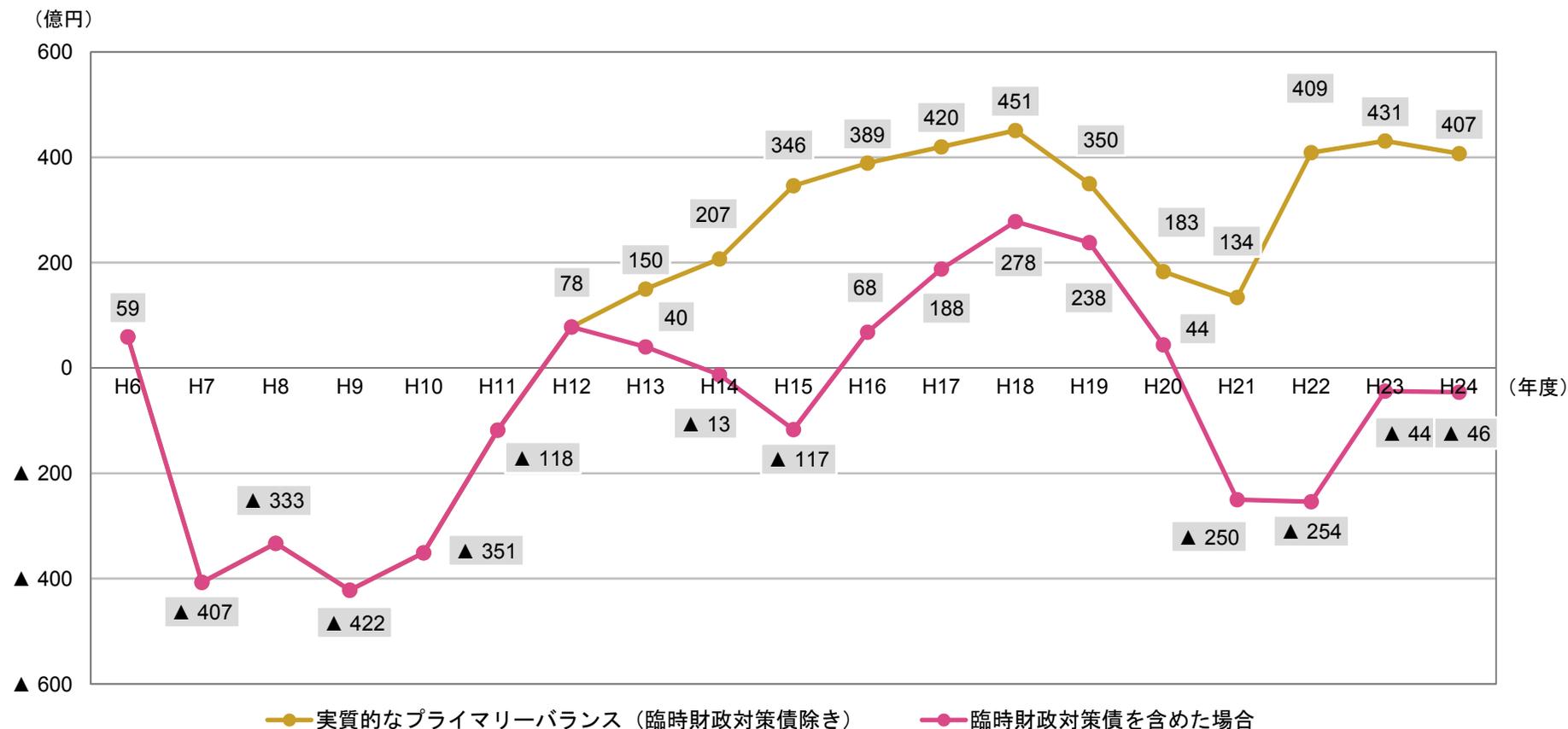
経常収支比率
97.4%
全国順位 集計中
全国平均 94.6%



プライマリーバランスの推移(決算ベース)

- 実質的なプライマリーバランス(臨時財政対策債除き)は決算ベースで13年連続して黒字を維持
- 引き続き将来世代に対する負担に配慮した財政運営を実施

一般会計ベース



Section 4.

公営企業・地方公社等について

- 平成24年度決算の公営企業会計全体の純損益は、1,696百万円の黒字
- すべての公営企業会計の資金収支は、黒字を維持しており、財政健全化法に基づく経営健全化基準値(▲20%)をクリア
- 地方三公社(住宅供給公社、土地開発公社、道路公社)のうち「群馬県住宅供給公社」のみ存在。住宅供給公社の主な業務は、県営住宅管理業務であり、安定した経営
- 県が25%以上出資する公社・事業団等については、解散を含め、そのあり方の見直し等を行った結果、H20年4月1日現在34団体であったものが、H25年4月1日現在26団体



[少林山だるま市]

縁起だるま発祥の地と言われ、毎年1月6・7日 少林山達磨寺で開かれるだるま市です。約100軒もの露店が並び、人々で賑わいます。





公営企業会計の決算状況

- H24年度決算の全体の純利益は1,696百万円となり、前年度に比べ99百万円の減少
- すべての会計の資金収支は、黒字を維持しており、財政健全化法に基づく経営健全化基準値(▲20%)をクリア
- 団地造成事業は、分譲地の売却収益が売却原価を下回ったため経常損失を計上しているが、特別利益(価格調整引当金の取崩し)の計上により、収支均衡
- 病院事業は、経営改善努力に加え、患者1人当たりの診療報酬単価アップにより医業収益が増加したため、前年度に比べ469百万円減の純損失162百万円を計上。引き続き県立病院改革プランに基づき、経営改善に取り組む

(百万円)

区分		電気	工業用水道	水道	団地造成	駐車場	病院	合計
損益計算書	営業収益(A)	6,304	1,737	6,381	5,466	102	20,517	40,507
	営業費用(B)	5,604	1,346	4,892	6,243	96	23,869	42,050
	営業損益(C=A-B)	700	391	1,489	▲ 777	6	▲ 3,352	▲ 1,543
	営業外収益(D)	113	169	18	58	1	4,195	4,554
	営業外費用(E)	154	264	654	20	7	913	2,012
	経常損益(F=C+D-E)	659	296	853	▲ 739	0	▲ 70	999
	特別利益(G)	0	1	49	2,708	0	0	2,758
	特別損失(H)	0	0	0	1,969	0	92	2,061
	純損益(I=F+G-H)	659	297	902	0	0	▲ 162	1,696
貸借対照表	資産の部	67,609	29,551	91,430	63,338	3,531	46,320	301,779
	固定資産	42,373	28,203	82,403	13,818	3,461	36,622	206,880
	流動資産	25,236	1,348	9,027	49,520	70	9,698	94,899
	負債の部	3,280	2,157	3,767	23,539	63	2,880	35,686
	固定負債	2,575	2,018	3,350	22,895	34	742	31,614
	流動負債	705	139	417	644	29	2,138	4,072
	資本の部	64,329	27,394	87,663	39,799	3,468	43,440	266,093
	資本金等	52,652	3,131	32,280	31,585	0	10,434	130,082
借入資本金(企業債等)	2,715	11,342	25,313	5,642	711	22,109	67,832	
剰余金	8,962	12,921	30,070	2,572	2,757	10,897	68,179	
	資金収支(流動資産-流動負債)	24,531	1,209	8,610	8,853	41	7,560	50,804



地方三公社の決算状況（住宅供給公社）

- 本県では、地方三公社（住宅供給公社、土地開発公社、道路公社）のうち「群馬県住宅供給公社」のみ存在（土地開発公社は平成21年8月末で解散、道路公社はもともと設置していない）
- 群馬県住宅供給公社の主な業務は、県営住宅管理業務（維持管理、家賃収納業務を県から受託）であり、安定した経営を行っている

貸借対照表

（百万円）

区分		H22年度	H23年度	H24年度
資産	流動資産	4,238	2,085	1,667
	固定資産	5,056	6,780	7,173
	繰延資産	—	—	—
	資産合計	9,294	8,865	8,840
負債	流動負債	2,886	2,326	2,261
	固定負債	3,359	3,413	3,341
	特別法上の引当金等	—	—	—
	負債合計	6,245	5,739	5,602
資本	資本金	40	40	40
	剰余金	2,271	2,288	2,398
	法定準備金	738	798	800
	資本合計	3,049	3,126	3,238
負債・資本合計		9,294	8,865	8,840

損益計算書

（百万円）

区分		H22年度	H23年度	H24年度
経常損益	営業収益 (a)	2,912	4,950	2,718
	営業費用 (b)	3,451	4,833	2,596
	一般管理費 (c)	51	53	59
	営業利益 (d=a-b-c)	▲ 590	64	63
	営業外収益 (e)	22	18	65
	営業外費用 (f)	22	33	60
	経常利益 (g=d+e-f)	▲ 590	49	68
特別損益	特別利益 (h)	26	28	44
	特別損失 (i)	—	—	—
	特定準備金計上前利益 (j=g+h-i)	▲ 564	77	112
	特定準備金取崩 (k)	566	221	—
	特定準備金繰入 (l)	—	—	—
	法人税等 (m)	—	—	—
当期利益 (n=j+k-l-m)	2	298	112	



出資法人の状況

- 県が25%以上出資する公社・事業団等については、解散を含め、そのあり方の見直し等を行った結果、H20年4月1日現在34団体であったものが、平成25年4月1日現在26団体
- (社)群馬県林業公社については、分収林事業の清算及び事業の譲渡が完了。現在はH25年度末の法人解散に向けた手続きを進めている

主な法人の経営状況(出資金・出えん金が5億円以上など)

法人名	県出資等 (千円)		当期利益(損失) (千円)		純資産又は 正味財産 (千円)
	県出資額	比率	H23年度	H24年度	
(公財)群馬県産業支援機構	913,050	85.9%	▲2,702	4,304	1,394,427
(財)群馬県観光物産国際協会	864,000	88.7%	▲7,840	110,937	1,188,706
(財)群馬県蚕糸振興協会	662,500	53.9%	462	▲3,359	1,262,186
(公財)群馬県農業公社	610,000	65.8%	▲32,688	13,329	990,389
(財)群馬県森林・緑整備基金	580,000	39.4%	25,172	20,915	1,539,061
(財)尾瀬保護財団	545,328	35.2%	▲12,935	657	1,655,963
(公財)群馬県暴力追放運動推進センター	512,275	82.1%	2,434	751	656,118
(財)群馬県スポーツ協会	502,700	68.7%	▲4,516	▲1,054	1,082,627
(社)群馬県林業公社 ※分収林事業清算完了。公社はH26.3月で解散予定	10,000	61.0%	▲327,625	▲1,550	141,785

※H25年3月末時点



Section 5.

市場公募債発行計画



ググッとぐんま観光キャンペーンポスター

- 草津温泉(草津町)
- 富岡製糸場(富岡市)
- 焼きまんじゅう(郷土名物)
- ノコギリ屋根工場(桐生市)
- キャニオニング(みなかみ町)





平成25年度市場公募債発行計画

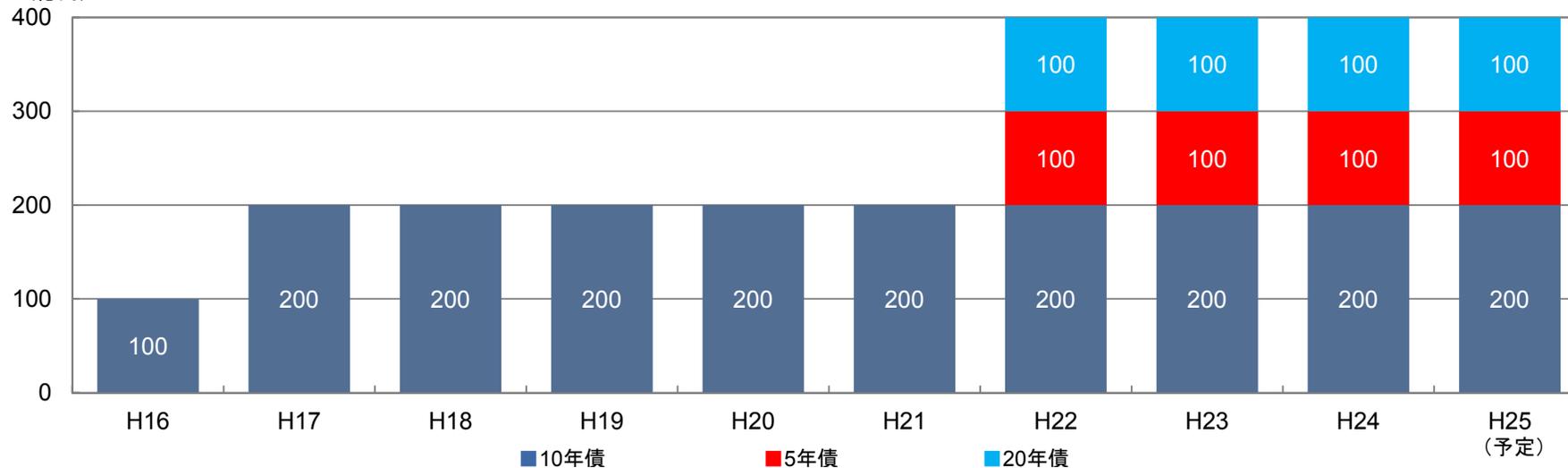
平成25年度市場公募債発行計画

(億円)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5年債								100					100
10年債								200					200
20年債			100										100
住民参加型(5年)							20						20
合計			100				20	300					420

市場公募債発行額の推移

(億円)





お問い合わせ先

本件に関するお問い合わせ先

群馬県総務部財政課県債係

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1

TEL	027-226-2096
FAX	027-224-9123
e-mail	marketbond@pref.gunma.lg.jp
HPアドレス	http://www.pref.gunma.jp/

- 本資料は投資家向けに情報提供するものであり、投資に関する売買等の取引を提案、勧誘、助言するものではありません。
- 本資料に掲載している情報は、修正される場合があります。
- 本資料内のデータは、信頼できるとされる各種データに基づき作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。